

対馬暖流は沿岸寄りを北上 対馬暖流の流量は平年の6割増し 今後の沿岸水温は平年よりも高く推移する

2024年7月26日～29日にかけて実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

対馬暖流は、松前の沖合から奥尻島の東方を通り、その後は沿岸寄りのルートを取り北上しています（図1c）。

対馬暖流の北上流量は約2.4Sv（1 Sv=10⁶ m³/s）で、平年よりも6割多くなっています（8月流量の平年値は1.5Sv）。

近年は積丹半島近海に暖水渦が形成される傾向にありますが、今回の観測では暖水渦はみられません。また、はるか沖合では亜寒帯循環（指標：50 m深水温8℃以下）が本道方面に張り出しています。

50 m深水温は5～19℃で、平年並みか平年よりも約2～6℃高くなっています（図1a,b）。

8月中旬の余市前浜水温は「かなり高い」ですが（※1）、向こう1ヶ月の気温の予報は高くなる確率が60～70%以上となっていますので（※2）、今後、沿岸水温は平年よりもさらに高く推移することが予想されます。



※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/suion/index.html>

余市前浜水温 気象庁1ヶ月予報

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

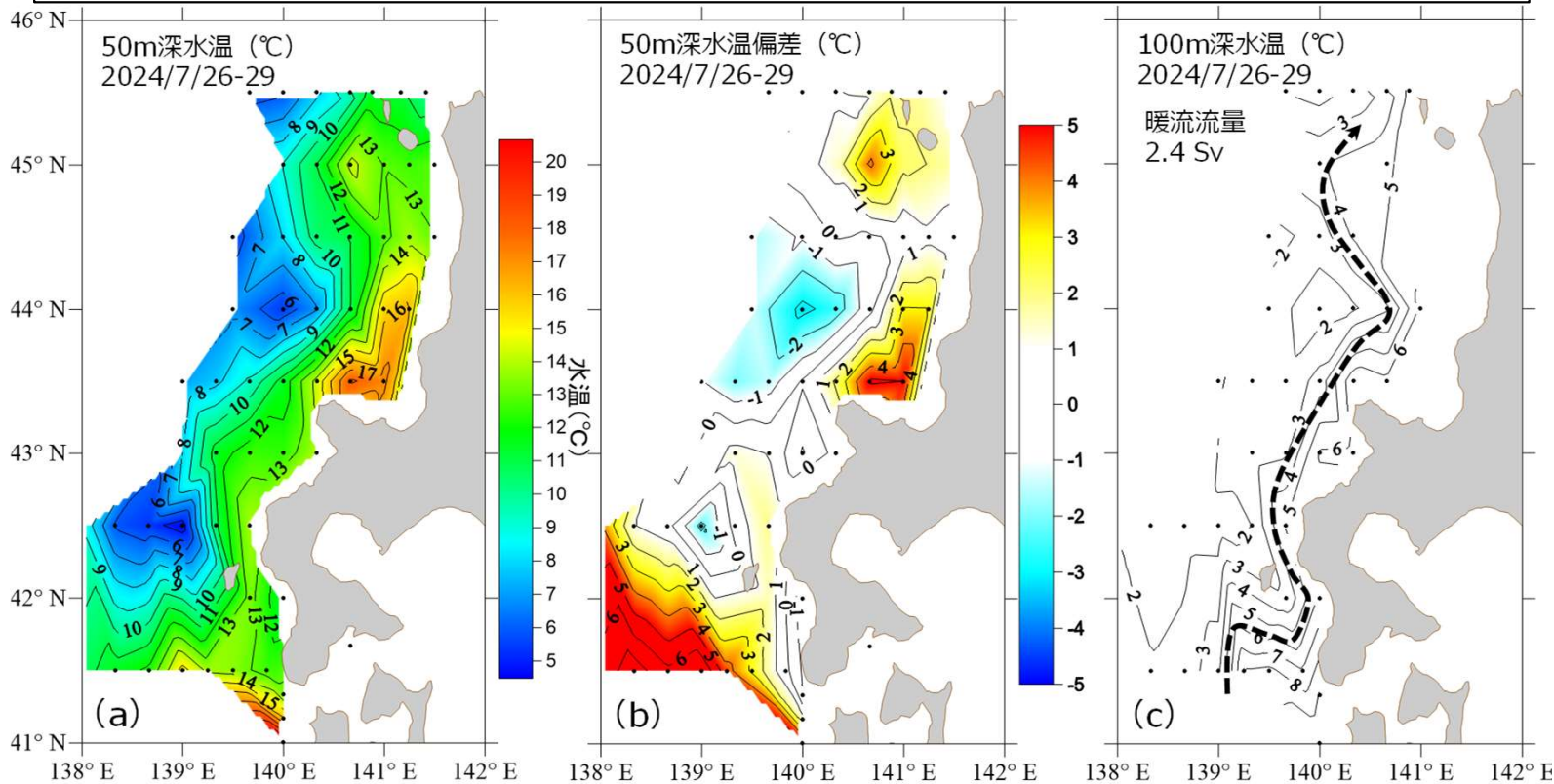


図1 2024年7月下旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路（矢印）。水温偏差は過去30年（1989年～2018年）の平均値から算出。流量の単位はSv（=1×10⁶m³/s）。